

# 全 青 中 だ よ り

VOL. 5

(平成24年新年号)

## ～スピリット・きりひらけ次世代に繋がる青年中央会～



都道府県青年中央会（協議会）会員の皆様が、新しい年を健やかに迎えられましたことと心からお慶び申し上げます。また、この度の震災において被災された青年中央会（協議会）関係者の方々に心からお見舞い申し上げるとともに、復興に尽力されている皆様には安全に留意されご活躍されることをお祈りいたします。

昨年、東日本大震災という未曾有の災害を経験し、日本は大きく変わりました。あの光景は誰も絶対に忘れることはないのではないかと思います。被災地だけでなく全国各地においても少なからず影響はあったと思います。しかしながら、私達はここで立ち止まってはられません。次世代を担う子供達の為、今もなお、復興に向けてたゆまぬ努力を続けている皆さんの為、今後の日本の為、私達は今こそ勇気ある1歩を踏み出し、「与えられる時代から、与える時代」へとイノベーションを起こす事こそが、私達に与えられた使命だと考えます。

また、この度の大地震で、私達は「絆」「感謝」「仲間」の大切さを改めて実感いたしました。大地震という苦難に対して「こうしたい」という強い熱意を持つ事で、様々なアイデアが引き寄せられ、そのアイデアは苦難を乗り越えるために必要な知恵となるはずです。この知恵を活かすためには、「知識」「経験」「行動力」が三位一体となることが求められます。都道府県青年中央会（協議会）は持ち前の「行動力」を活かして長年実施してきた異業種間交流によって、「知識」と「経験」の宝庫となっており、全国中小企業青年中央会は都道府県青年中央会（協議会）が培ってきた「知識」と「経験」を共有できるよう今後も一層精進して参ります。

最後に、皆様のご家族のご多幸と会社の繁栄の為、また、今を生きている日本の為に皆様の深いご理解とご尽力を頂きより良い日本に、活気ある全国中小企業青年中央会、各県青年中央会（協議会）になるよう皆様と共に歩んでいきましょう。

## 被災地からのメッセージ

東日本大震災による被害だけでなく、原発事故による風評被害も重なって苦しんでいる中、復興に向けて努力を続けている福島県の廣川会長からメッセージが届いています。

### I LOVE 福島

福島県中小企業青年中央会  
会長 廣川 寛

東日本大震災とそれに伴う原発事故の発生以降、全国の方々と青年中央会の皆様から寄せられた熱いご支援に心から感謝申し上げます。御礼の気持ちを込めつつ、現在の福島について情報発信させていただきます。

昨年末、政府は福島第一原発の冷温停止状態を宣言しました。

しかし、今も多くの県民が県内外への避難生活を強いられており、住民票そのままに避難している人を考慮するとその数は計り知れません。

野田総理は「原発事故が収束した」と発言されましたが、避難住民の帰還や将来の展望を示せない現状では、地元感情と乖離した表現と言わざるを得ないでしょう。

福島県も復興ビジョンは示しましたが、具体的な復興計画は未だ示されていません。国が県全体の責任ある明確な支援ビジョンを描くことが福島復興に欠かせません。

そんな今、私たちの最大かつ喫緊の課題は除染です。東日本の広範囲に汚染は及んでいます。国の状況調査はこれからで、その上で除染実施計画を作成します。後手後手の対応を頼ってられない状況に、地域住民や PTA が中心になって、校舎や通学路で独自に除染活動を行っています。でも、排水や残土の問題もあり、根本的な解決には至らず、多くの課題が残っています。

でも、福島県って広いんです。地域や家族構成によって抱えるストレスは差がありますが、それぞれが不安を抱えながらも多くの県民は以前と変わらない生活ができるようになりました。多くの地域は安全なんです。セシウム検出のニュースもありますが、市場に出回る食品も安全です。是非、全国から東北へ、そして福島へ、みんなに来ていただいて、勇気を与えていただきたいと思います。

福島では、原発関連のニュースが流れない日はありません。全国ではどうでしょうか。原発事故を風化させることなく、未長いご支援を切に望みます。

福島復興に向けて、政府は次期通常国会に特別措置法案を提出する予定ですが、避難区域の住民に対して援助ではなく、自立できるような支援を望みます。

野田総理の「福島の復興なくして日本の再生なし」という言葉が現実になることを心から願っています。

## トピックス

①平成23年度通常総会が6月17日(金)、京都ホテルオークラ(京都府京都市)において開催されました。総会では、平成22年度事業報告、決算報告並びに平成23年度事業計画(案)、収支予算(案)など4つの議案についての審議が行われ、全議案が満場一致で承認されました。この中で、一部役員のリ任に伴う補充によって、新たに愛知県の谷典芳氏が理事に就任しました。

総会終了後は、各青年中央会(協議会)の代表者らが一堂に会して、全国代表者会議が開催されました。今年度も昨年度と同様、事務局担当者を含む出席者全員参加型のディスカッション形式によって行われ、『夢について』『有事対応について』をテーマに、グループに分かれて積極的な議論を交わしました。

全国代表者会議では、ディスカッションに加えて、この度の東日本大震災で被災された岩手県の佐藤会長、宮城県の田中会長、福島県の廣川会長、茨城県の笠倉会長から、被災状況等が報告されました。

全国代表者会議終了後に開催された懇親会では、東日本大震災で被災された組合青年部関係者の支援を目的としたチャリティーオークションが開催され、売上総額351,500円が義援金として寄付されました。



総会で開会挨拶をする堀井会長



全国代表者会議の様子

②平成23年11月11日(金)、青森県青森市の「青森国際ホテル」において、平成23年度組合青年部全国講習会が開催されました。講習会では、協同組合八食センター元専務理事の谷村充生氏による「協同組合八食センターから見る共同店舗の経営」と題した講演と、福井県中小企業団体青年中央会の寺本会長から「どうせ買うならの取り組み事例」について、全国中小企業青年中央会の佐久間副会長から「ぐるなび復興支援助成金の活用について」の発表が行われました。

発表終了後は、青森市中心街を視察する班と、グループディスカッションを行う班に分かれ、視察班は中心市街地活性化の事例として有名な商業施設「アウガ」等を視察、グループディスカッション班では、「有事に備え、青年中央会としてどのような対策をとっておくべきか」「有事の際、青年中央会としてどのような活動を行えばよいか」について、12グループに分かれてディスカッションを行いました。

その後の懇親会では、青森山田学園囃子隊によるねぶた囃子の演奏がされるなど、青森県ならではの趣向で宴は大いに盛り上がり、参加者は全国各地の仲間とそれぞれ交流を深めました。



福井県寺本会長による発表



青森山田学園囃子隊によるねぶた囃子の演奏

## ぐるなび復興支援助成金のご報告

青森県において開催した全国講習会にて、全青中佐久間副会長から『ぐるなび復興支援助成金』の事業内容をご紹介させていただきました。皆さんは、全国講習会の懇親会会場の中央部に、美味しいお刺身や十和田牛バラ焼きといった地元産の料理が並んでいたのを覚えていますか？実はこれらの料理は、この助成金を活用して提供されたものなのです。ぐるなび復興支援助成金の趣旨は、助成金を活用して被災地域の美味しい食べ物を皆さんに食べていただき、東北地方の食べ物は安心・安全で美味しいということ年全国にPRすることが目的です。この趣旨に賛同して事業実施の申請をしていただいた青年中央会（協議会）は、現在6団体あります。

その6団体の事業テーマや予算等は下記の通りです。次のページでは、参考例として実際に助成決定がされた事業の申請書をご紹介します。徳島県青年中央会さんの事業です。

ぐるなび復興支援助成金の申請書は2月15日まで受け付けています。『ぜひうちの青年中央会（協議会）でもやってみよう！！』というお話になったら、全青中事務局までお気軽にお問い合わせ下さい。

## ぐるなび復興支援助成金活用実績一覧（2012/1/20 時点）

（単位：円）

No.	単会名	事業名	開催日	申請金額	使用額
1	青森県中小企業青年中央会	組合青年部全国講習会 i n 青森	2011 11/11	500,000	500,000
2	宮崎県中小企業団体中央会 青年部	宮崎県中小企業団体中央会 青年部宮崎県大会	2011 11/22	125,825	125,825
3	滋賀県中小企業青年中央会	びわこフェスタ2011	2011 11/27	148,500	104,720
4	徳島県中小企業青年中央会	「お菓子の笑顔で！心のケア」プロジェクト (徳島県の銘菓無料配布)	2012 2/20 ～ 2/21	200,000	未
5	山口県中小企業団体中央会 青年部	耕せニッポン！山口県から 元気を届けよう！	2012 3/17	500,000	未
6	大分県中小企業団体中央会 青年部会	チャレンジマーケット「ま ちなか市場」への出店	2012 1/21	426,000	未

ぐるなび復興支援助成金総額 10,891,255円  
 助成決定額（他団体含む） 5,030,298円  
 助成金残額 5,860,957円

## 【申請事例】

1、事業名	「お菓子で笑顔を！心のケア」プロジェクト（徳島県の銘菓無料配布）																						
2、事業実施団体	（単位会名）徳島県中小企業青年中央会																						
3、事業実施期間	平成24年2月20日 ～ 平成24年2月21日																						
4、事業概要	<p>○事業内容</p> <p>徳島県中小企業青年中央会では会員である徳島県菓子工業組合青年部と連携し「お菓子で笑顔を！心のケア」プロジェクトとして、宮城県の南三陸町及び石巻市の小学校にて、子供達に徳島の銘菓の無料配布を実施する。</p> <p>○復興支援となるポイント</p> <p>徳島県中小企業青年中央会は、8月に宮城県を訪問した。その際、地元の方との会話で出た「復興は、段階的に実施されてくると思うが、今後、重要になってくるのは、被災された方々の心のケアなんじゃないですか？」との言葉が強く印象に残った。その後、我々で何か出来ることはないかと色々と調べていたところ、ストレスによるPTSD(心的外傷後ストレス症候群)が、被災地の子供にとって大きな問題になっていることがわかった。そこで、徳島には美味しいお菓子がたくさんあるのだから、被災地の小学生に配ることで子供達を喜ばせること出来れば、子供達の心のケアにつながり、被災地の子供達が元気になることで被災地に活気が生まれ、復興支援も進むという結論に至り、今回の申請となった。</p> <p>○事業の遂行体制</p> <p>徳島県中小企業青年中央会が現地との折衝役となり、徳島県菓子工業組合青年部会と連携して、宮城県産の米粉や餅米などを活用することで、徳島県産の鳴門金時などとコラボレーションした和菓子（約3,000個）を製作する。製作した和菓子は、徳島県中小企業青年中央会と徳島県菓子工業組合青年部が現地において無料配布する。</p>																						
5、事業予算	<p>収入の部</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>金額</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ぐるなび復興支援助成金</td> <td>200,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>200,000</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>支出の部</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目</th> <th>金額</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材料費</td> <td>150,000</td> <td>菓子の原材料等</td> </tr> <tr> <td>運搬費</td> <td>50,000</td> <td>宅配便 菓子 3,000 個分</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>200,000</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		科目	金額	備考	ぐるなび復興支援助成金	200,000		合計	200,000		科目	金額	備考	材料費	150,000	菓子の原材料等	運搬費	50,000	宅配便 菓子 3,000 個分	合計	200,000	
科目	金額	備考																					
ぐるなび復興支援助成金	200,000																						
合計	200,000																						
科目	金額	備考																					
材料費	150,000	菓子の原材料等																					
運搬費	50,000	宅配便 菓子 3,000 個分																					
合計	200,000																						

友好青年4団体共同事業「ぐるなび復興支援助成金」をご活用いただき、ありがとうございます。4団体の中でも、青年中央会（協議会）はとりわけ積極的にご活用いただいております。今後、ご活用いただいたから青年中央会（協議会）から実績をご報告いただけたらと思っております。まだまだ予算もありますから、皆様にご活用いただければ幸いです。

先に、福島県の廣川会長からメッセージを頂戴しました。何とか平常の生活を送ろうと必死に頑張られている様子が伺えました。まだまだ先の見えない中で、必死に闘っておられる…胸が熱くなります。

11月の青森県での全国講習会で、廣川会長、福島県の皆様とお話しさせていただきました。その内容には私も涙してしまいました。

沢山の訴えの中で『なぜ福島というだけで腫れ物に触る様な目で見られるのか』『福島は危ない場所ばかりでない』『他県に行って福島ナンバーの車を露骨に避けられた、傷を付けられた』『このままだと一時的に県外避難した人は帰って来ないだろう』『福島から来た子供とは遊んではダメ』などでした。本当の話です。全く信じられません、何が『絆』だろうと感じてしまいました。

物凄く気になったのは、子供が減ってこの先の中小企業がどうなるのかということ、そして風評被害です。正しい情報を私たち各都道府県青年中央会と全国青年中央会で発信することは可能なはずです。お願いいたします！日本各地で皆様が『正しい情報』を発信して下さい。情報は被災地の仲間に聞けば得られるし、全国青年中央会で情報収集に努める事も必要だと思います。

被災地の県の会長さんに何うと『福島は特別』とおっしゃっていました。義援金以外に何か新しいアクションを考えなくてはと改めて実感しました。

## 今後の予定

平成24年6月22日（金） 通常総会・全青中創立20周年記念式典

開催場所：明治記念館

東京都港区元赤坂2-2-23

平成24年9月開催予定 組合青年部全国講習会

開催場所：福岡市内（詳細は後日お知らせいたします）

今年は全青中が設立されてから20年目という節目の年です。6月には全青中創立20周年記念式典を全青中発祥の地である明治記念館で開催します。皆様のご参加お待ちしております。また9月には、福岡市内において組合青年部全国講習会を開催する予定です。20周年式典から3ヶ月という短いスパンでの開催となりますが、奮ってご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

出筆担当 副会長 佐久間 厚尚